

門真市幸福東土地区画整理事業に伴う 普賢寺遺跡発掘調査 現地公開資料

令和2年11月18日
門真市 市民文化部 生涯学習課
公益財団法人 大阪府文化財センター

標記事業用地一帯には普賢寺遺跡が広がっています。周辺で行われたこれまでの調査では、金銅製の僧形座像や密教法具をはじめ、瓦や絵馬、柿^{こけらぎょう}経など寺院に関わる遺物が数多く出土していることから、遺跡内には中世の記録に登場する「普賢寺」があったのではないかと考えられています。また遺跡の北辺では盾持人埴輪や円筒埴輪をもつ「普賢寺古墳」が見つかっており、事前に実施された試掘調査でも埴輪片が多く出土していることから、用地内から古墳が見つかる可能性も指摘されていました。

今回の調査面積は約6,100㎡ですが、一気に調査を進めることができないため、調査区を9分割し、本年6月24日から機械掘削を開始しました。これまでに3・4・7・8・9区の調査を終え、現在2区の調査中です。本年度中に現地調査を終了し、来年度は報告書作成に向けた整理作業に入る予定です。

今回の調査では、3区から4区にかけて蛇行する幅の広い溝が見つっています。溝の肩部からは多くの埴輪と土器がまとまって出土していることから、もともとは古墳の周溝だったのではないかと考えています。また3区では大型の掘立柱建物も一棟見つっています。東西は9間以上もあり、北面と南面には廂^{ひさし}も設けられている立派な建物ですが、寺院の建物に見られるような基壇や礎石はありません。

多くの土器や瓦のほか、金銅製密教法具の蓋など貴重な遺物も出土しており、少しずつ遺跡の様子が明らかとなってきています。



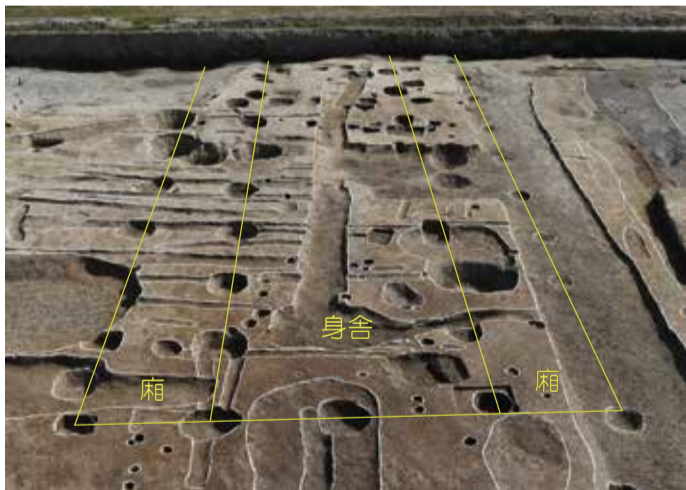
遺構を検出・掘削した段階でラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施し、全体平面図を作成します。以前は八尾空港からカメラを積んだヘリコプターが飛んできて撮影していました。



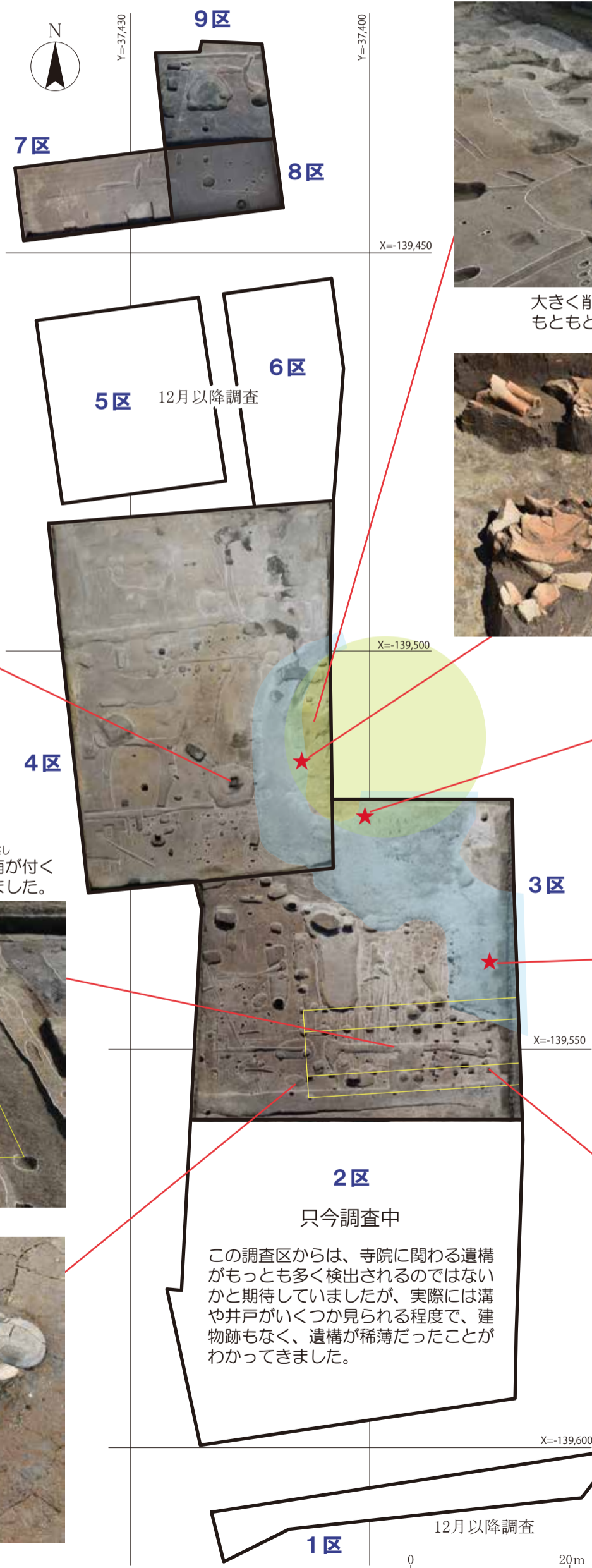
井戸の底には桶が据えられていました。



東西9間以上で、北と南側に廂^{ひさし}が付く大型の掘立柱建物が見つかりました。



小さなお皿がまとまって出土しました。



大きく削られていますが、溝で囲まれた部分[●]はもともと古墳だったのではないかと考えています。



溝の肩部からさまざまな形の埴輪や土器がまとまって出土しています。



溝底から金銅製密教法具の蓋が出土しました。昭和59年にも同様のものが発見されており、それらは大阪府の指定文化財になっています。



実物大



柱の根元部分が腐らずに残っていました。



瓦も多数見つっています。

2区
只今調査中

この調査区からは、寺院に関わる遺構がもっとも多く検出されるのではないかと期待していましたが、実際には溝や井戸がいくつか見られる程度で、建物跡もなく、遺構が稀薄だったことがわかってきました。

0 20m